

---

# 涼宮ハルヒの洞窟

棘草かがみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

涼宮ハルヒの洞窟

### 【Nコード】

N0941F

### 【作者名】

棘草かがみ

### 【あらすじ】

ハルヒが小学五年生のときの物語。ある日、デパートで開店10人目なので扉に入れてもらった。すると洞窟にいた。そこは不思議のダンジョンで……

## プロローグ

あたしはハルヒ、涼宮<sup>すずみや</sup>ハルヒ。  
ごく普通の小学5年生。

ハルヒ「今日はどうなるのかな」

あたしは普通に学校に行く、途中で新しく出来たデパートを見つけた。

時間があるし、このデパートに行く

店員「開店100人目の貴方は特別にこの扉に入れてあげます」

あたしはその扉に入った。

すると何かの渦の中で飛ばされた。アトラクションなのか。

それとも……

あたしの前に丸くて尻尾があつて顔の上の方が青い可愛い生き物が  
1匹目の前にいた。

ハルヒ「あんた、誰？」

あたしはこの未知の生物に話しかけた。  
すると、その未知の生物は答えた。

ママきち「ボクはママルのママきち。貴方はだれ？」

この生物はママルと言う生物らしい。猫なのか、リスなのか、何か  
は分からないが獣だとは思う。

人間とかの種類だと思う。

あたしもそのmamきちに自己紹介をする

ハルヒ「あたしは涼宮ハルヒ。よろしく！」

あたしはmamきちと仲良くなったが、ここが何処なのかはわからない。

未知の生物が居ると言う事は自分の生活している世界とは別かもしれない。

小学五年生のハルヒにとっては、大騒ぎするほどではなく、冷静にも一応なれる。

ハルヒ「ねえ、mamきち、ここは何処？」

mamきち「ここは………不思議のダンジョンの中。このダンジョンを抜けて町へ行くんだー！」

ハルヒ「わかったわ、mamきち、道案内してー！」

あたしの波乱万丈なたびは今始まったー！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0941f/>

---

涼宮ハルヒの洞窟

2010年10月10日03時25分発行